

～適期の刈り取りで収量・品質を確保～

1 8月21日現在の生育状況 ～穂数少なく、㎡当たり着粒数少ない～

表1 水稻定点調査結果（8月21日）

	穂数 (本/㎡)	一穂着粒数 (粒/穂)	㎡当たり着粒数 (粒/㎡)	出穂期 (管内全域盛期)
本年	435	69.4	29,975	8月2日
平年	481	68.5	32,854	8月4日
平年比・差	90%	101%	91%	-2

※品種：あきたこまち、管内5カ所平均

- 管内では、7月下旬頃から出穂期に達したほ場が見られており、管内全域の出穂盛期は平年より2日早い8月2日となりました。
- 穂数は、茎数が平年より少なく推移し、また7月以降の高温による消耗もあったと考えられ、平年比90%と少なくなりました。
- 一穂着粒数は、幼穂形成期（7月15日頃）から減数分裂期（7月25日頃）にかけて葉色が濃く推移していたことにより、平年比101%と平年並になりました。
- ㎡当たり着粒数（㎡当たり穂数×一穂着粒数）は、一穂着粒数が平年並で、穂数が少ないことから、平年比91%と少なくなりました。

2 斑点米カメムシ類防除～収穫2週間前まで畦畔・農道の草刈り禁止～

- 8月22日に病虫害防除所から、防除対策情報第15号（水稻 斑点米カメムシ類）が発表されました。
- 8月中下旬のすくい取り調査で、水田内に雑草（ノビエ、カヤツリグサ科）が発生しているほ場で、斑点米カメムシ類の発生が多い状況でした。
- 出穂期以降、気温が高く推移していることから、割れ粃の発生量が多くなると予想されます。その場合、側部斑点米が主体となります。
- 水田内雑草があるほ場、牧草地や休耕田などの発生源に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃に、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布します。
- 畦畔・農道及び雑草地（法面や休耕田など）の草刈をする場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。

3 登熟の向上を図る水管理

- 1ヶ月予報（仙台管区气象台8月17日発表）では、向こう1ヶ月は気温が高く、特に期間の前半（8月19日～9月1日）はかなり高くなる見込みです。
- 早期に落水すると、葉色の低下や枯れ上がり、根の機能減退により登熟が妨げられ、収量、品質、食味が低下する場合がありますため、落水の時期は概ね出穂30日後としてください。

4 刈り取り ～適期の刈り取りで品質低下防止～

刈取適期は個々のほ場条件で異なるため、出穂後の日数、出穂後の積算気温で予測すると共に、籾の黄化程度、枝梗の黄化程度などを観察し総合的に判断してください。

刈取適期の判断目安

- ①出穂後の日数
早生品種で45日前後、中晩生品種で50日頃
- ②出穂後の積算気温：出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表2参照）
早生品種（あきたこまち等）・・・950～1,050℃
中晩生品種（めんこいな等）・・・1,050～1,150℃
- ③籾の熟色
葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%（黄色＋黄白色の割合）の頃
- ④枝梗の黄化程度
穂の主軸の上から5番目までの枝梗が黄化した頃

表2 出穂後の積算気温到達日予想

出穂期	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
	早生品種「あきたこまち」等				
			中晩生品種「めんこいな」等		
7月27日	9月4日	9月7日	9月9日		
8月2日	9月12日	9月14日	9月17日	9月20日	9月23日
8月5日	9月16日	9月19日	9月22日	9月25日	9月28日
8月10日	9月24日	9月27日	9月30日	10月4日	10月8日

※8月20日までは実況値、8月21日以降は平年値で計算

- 本年の出穂盛期の8月2日出穂のあきたこまちでは、9月12日～17日頃が積算気温から推測した刈り取りの目安となります。
- 今後も高温の予報となっていることから、さらに刈取適期が早まることが予想されるため、刈り遅れに注意してください。